

●Aiの学会設立で新たな展開を目指そう

日本オートプシー・イメージング (Ai) 技術研究会 会長 | 阿部一之



日本オートプシー・イメージング
技術(Ai)技術研究会ロゴ

2019年5月、日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会を立ち上げて活動を行ってきた。今までの活動を振り返り、いよいよ学会を立ち上げる準備にとりかかっている。学会を設立してAiの推進に向けて新たな展開を目指す。

In May 2019, the Japanese Society of Autopsy imaging and Technology was established and has been active. Looking back on the activities so far, we are finally preparing to launch the academic society. We will aim to develop to promote autopsy Imaging (Ai) with establishing an academic society.

● はじめに

2020年1月から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応とともに死因究明に貢献するオートプシー・イメージング(Ai: 死亡時画像診断)で日夜献身的にご活躍している皆様に敬意を表する。2019年5月、日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会(以下、本研究会という)を設立して、同年8月、本研究会設立総会と第1回学術大会を開催してから今日まで継続して活動してきた^{1~4)}。これまでの学術・研究活動を振り返りながら、Aiの更なる活性化に向けて、研究会から学会設立に向けた取り組みについて述べる。

死因究明制度における Aiの行政評価と 死因究明推進計画

2011年より死因究明制度に関する審議を経て死因究明二法が制定され、総務省の行政評価と厚生労働省の死因究明推進

計画に基づいた施策により、日本国内の死因究明制度におけるAiの位置付けが明らかになり、資質向上に努めることを求められている^{5~7)}。

- 死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会報告書 厚生労働省 平成23(2011)年7月
- 医療事故調査制度 2015年10月スタート

- 死因究明などの推進に関する法律(死因究明等推進法) 2014年6月(時限立法)、2020年4月施行
- 警察等が取り扱う死体の死因または身元の調査等に関する法律(死因・身元調査法) 2012年6月成立、施行
- 死因究明等の推進に関する政策評価書 総務省行政評価局 令和3(2021)年3月(図1)
- 死因究明等推進計画 厚生労働省 令和

(イ) 死亡時画像診断の活用

死亡時画像診断とは、磁気共鳴画像診断装置その他の画像による診断を行うための装置(MRI(磁気共鳴画像法)、CT(コンピュータ断層撮影)、US(超音波検査)等)を用いて、遺体の内部を撮影して死因の原因を診断することであり、死因究明等に資する検査手法の一つである。

表 30 警察取扱死体に対する死亡時画像診断の実施件数・実施率							(単位: 体、%)
	死亡時画像診断の実施判断主体	警察が把握しているもの	東京都監察医務院(注3)	死亡時画像診断の実施件数	警察取扱死体	死亡時画像診断の実施率	
平成23年(注2)	10,565	2,952	784	14,301	173,735	(8.2)	
28年	38,729	13,210	2,953	2,330	57,222	161,407	(35.5)
29年	39,820	13,954	3,249	2,540	59,565	165,837	(35.9)
30年	39,308	13,927	3,138	2,316	58,689	170,174	(34.5)

(注) 1. 当初の調査結果による。
2. 平成23年の実施数については、51警察本部のうち25本部が「不明」と回答しているため、26本部の実

施数のみを掲げていることから、数値が実際のものより低い可能性がある。

3. 東京都監察医務院は、平成26年から死亡時画像診断を実施している。

なお、この表に掲げた期間後の実績として、大阪府監察医務院は平成31年からCT搭載車両を導入し、

死亡時画像診断の実施を開始している。

4. ()は、警察取扱死体に占める死亡時画像診断の実施件数合計の割合を表す。

死因究明等の推進に関する政策評価書：総務省行政評価局(令和3年3月)

図1 死因究明等の推進に関する政策評価書 Aiの活用と実施件数

3(2021)年6月

学術大会、学術セミナー、共同研究班発表会の報告

本研究会の沿革表と学術大会、学術セミナー、共同研究班発表会の開催状況から学会設立に向けての実績を提示する。

1. 沿革表

2019年5月1日
日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会(JSAiT)設立
2019年8月4日
設立総会、2019年度(第1回)学術大会開催(国立がん研究センター 研究棟大会議室)
2020年2月18日
2020年度総会開催(メール形式)
2020年8月10日
「COVID-19対策およびAi実施状況に関する緊急アンケート調査」結果報告
2020年11月23日
第15回医療の質・安全学会企画シンポジウム公募型に応募して採択「医療事故調査制度におけるAi(オートプシー・イメージング；死亡時画像診断)の活用と取り組み」(Web形式)
2021年3月1日
機関誌「Ai画像技術」創刊号を発行
2021年3月24日
2020年度(第2回)学術大会開催(Web形式)
2021年12月15日
2021年度総会開催(メール形式)
2022年1月20日
2022年度(第3回)学術大会開催(Web形式)
2022年2月21日
2021年度共同研究班発表会開催(Web形式)
2022年3月1日
機関誌「Ai画像技術」第2号を発行
2022年3月22日
2021年度学術セミナー開催(Web形式)
2022年6月20日
2022年度(第4回)総会開催と2022年度役員改選(メール形式)
2022年11月18日
MRI・CT・三次元画像処理技術セミナー開催(Web形式)
2022年12月14日
2022年度共同研究班発表会開催(Web形式)

2. 学術大会

①日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会2020年度学術大会

日時：2021年3月24日(水)
19:00～20:30(オンライン開催)

【セッション1】

座長 尾形 学(佐賀大学医学部附属病院)、小島正歳(千葉メディカルセンター)
「COVID-19緊急アンケート調査報告」
木口雅夫(広島大学病院)

「第15回医療の質・安全学会シンポジウム開催報告」
岩見守人(姫路赤十字病院)

【セッション2】 会員による発表

座長 石原敏裕(国立がん研究センター中央病院)、武井宏行(群馬大学医学部附属病院)

①「fused CTの管電圧管電流設定が画像コントラストに与える影響」
倉持里帆(筑波メディカルセンター病院)

②「COVID-19に対するAiセンターの取り組み」
金山秀和(島根大学医学部附属病院)

③「JSAiT共同研究委員会 経過報告」
江端清和(福井大学医学部附属病院)

②日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会2021年度学術大会

日時：2022年1月20日(木)
19:00～21:05(オンライン開催)

【セッション1】 会員による発表

座長 高橋伸光(奥州市総合水沢病院)
①「Aiにおける老衰死について～超高齢化地域での寿死™を考える～」
大川剛史(四万十町国保大正診療所)

②「小児医療センターでの取り組み」
佐々木保(群馬県立小児医療センター)

【セッション2】 特別講演

座長 木口雅夫(広島大学病院)
「Ai画像の成り立ちを生理学、生化学的に理解する」
塩谷清司(一般財団法人 恵愛会 聖隸富士病院)

3. 学術セミナー

①2021年度学術セミナー

日時：2022年3月22日(火)
19:00～20:50(オンライン開催)

【セッション1】 会員による発表

座長 武井宏行(群馬大学医学部附属病院)

①「死後頭部X線CT画像のポジショニング補正法の開発と歯根部観察への応用」
山下雄也(佐賀大学医学部附属病院)

②「大学病院Aiセンターにおける取り組みと九州からの情報発信」
尾形 学(佐賀大学医学部附属病院Aiセンター)

③「救急医療Aiにおける診療放射線技師の画像チェックの実際」
高橋伸光(奥州市総合水沢病院)

【セッション2】 企業による講演

座長 尾形 学(佐賀大学医学部附属病院)

「高精細CT装置および最新WSに関するご講演」

堤 高志(キヤノンメディカルシステムズ株式会社 営業本部 CT 営業部 技術担当)

②2022年度 MRI・CT・三次元画像処理技術セミナー

日時：2022年11月18日(金)

19:00～21:00(オンライン開催)

①死後MRIの撮像技術と画像解釈—臨床技術の常識と非常識

千葉メディカルセンター 小島正歳

②Aiに求められるCT撮影の基礎技術とは…(アーチファクト対策・Deep learning再構成)

国立がん研究センター 中央病院 石原敏裕

③Aiに活用される新しい三次元画像処理
国際医療福祉大学 樋口清孝

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 営業本部ヘルスケアIT営業部 武田 清